

会 議 録

会 議 名	令和 6 年度 山形市健康医療先進都市推進協議会
開催日時	令和 7 年 2 月 1 3 日（木）午後 6 時 3 0 分～ 7 時 3 0 分
開催場所	山形市役所 1 1 階大会議室
主 催	山形市（健康医療部 健康増進課）
出 席 者	別紙出席者名簿のとおり
議 題	協議 山形市健康プラン 2 0 3 5（第三次健康づくり計画）（案）について 【資料 1】
資 料	当日資料参照
傍 聴 者	一般 0 名 記者 0 名
作 成 者	健康増進課 主査 五十嵐

会議結果

- 1 開会 進行 【健康増進課 課長補佐】
- 2 会長あいさつ 【山形市長 佐藤 孝弘】
- 3 委員紹介
- 4 協議 【議長】
山形市健康プラン 2 0 3 5（第三次健康づくり計画）（案）について
～資料に基づき、第 1 章から第 4 章まで事務局から説明～

意見、質疑応答

【委員】

- ・第 3 章の「B. S U K S K 生活の推進」に関して、第 1 号被保険者に占める要介護 2 以上の認定者や要介護 2 以上の認定者のうち三大原因による認定者の比率が下がったとのことだが、第 1 号被保険者数が増加している中、その比率が減少したのは何が 1 番影響したのか。

【事務局】

- ・ 2 つ要因があると考えている。これまで市は、「健康医療先進都市」というビジョンを掲げながら、「S U K S K 生活の推進」といった独自の政策を市民の方に提案し、市民の自発的な健康づくりに関する取組を促進してきた。それが多くの市民の方に浸透し、認識いただいたことが 1 つ目の要因であると考えている。
2 つ目が、こうした市の考え方を市民の方が理解していただくことなどにより、各地区において様々な健康づくり活動が積極的に行われたことである。健康ポイント事業 S U K S K の登録者数が年間約 1. 4 5 % の伸び率になっていることなども、市民の方が

自発的に健康づくりに取り組んだ一つの現れだと感じている。

～資料に基づき、第5章から6章まで事務局から説明～

意見、質疑応答

【委員】

- ・重要指標の数値目標について、減少という表現ではなく数値が入った事で、整理されてわかりやすくなったと感じる。
- ・本編32ページに当協会で所管している「やまがた健康企業宣言」登録事業所数が評価指標として掲載されているが、県の健康増進計画である「第2次健康やまがた安心プラン」にも同様の評価指標が掲載されている。平仄を合わせてもらい仕事がしやすくなった。
- ・この計画は、令和7年度から令和17年度までの11年間を計画期間としているが、指標の最終評価年度が令和14年度となっており、最終年度より3年間早いのはどのような整理によるものなのか。

【事務局】

- ・本編2ページ「3計画期間」の表で国、県、市における計画のスケジュールを整理している。この表に記載のとおり、第三次計画は、国、県に合わせたスケジュールとしている。そのため、最終評価も国に合わせて令和15年度とした。評価するにあたり、前年度の数値を使用するため令和14年度を最終目標値の年度とした。ただ、世の中の状況を見ると目標値の考え方は数年経つと大きく変化することもあるため、中間評価で見直すなど、その都度適正な数値を設定したいと考えている。

【委員】

- ・本編4ページ5、6行目に「健康寿命延伸プラン等において、令和22(2040)年までの延伸目標が設定されている」とあるが、少子高齢化が進み、年々人口が減っていくため、健康寿命の延伸に向けた取組を進めても対象者自体が減ってくるのではないかと。そのため、健康寿命の延伸と並行して、子どもが増えるような政策も行っていく必要があるのではないかと。

【事務局】

- ・本編41ページ「ライフコースアプローチを踏まえた女性と子どもの健康増進」においてプレコンセプションケアについて記載しているが、この内容のとおり、まずは結婚や妊娠、子育てについて正しく理解していただくことが少子化対策に繋がっていくと考えている。そのため、当計画においてプレコンセプションケアに関する施策を盛り込み、その中で推進していくとともに、具体的な取組を進めていく際には、こども未来部とも連携を図りながら、ご指摘いただいている点について取組んでいきたい。

【委員】

- ・第4章バックキャスティングによる視点を踏まえた検証のところで、2040年のあるべき姿として記載してある「孤独や孤立を感じることがない思いやりにあふれるまち」を作るためには、今いる子どもたちが健やかに育っていく事がこのあるべき姿に繋がっていくと感じた。
- ・今から生まれてくる子どもたちを山形市で大事に育て、子どもたちが健やかに大人になれるような計画を策定してほしいと感じた。

【事務局】

- ・ライフコースアプローチについて、国は高齢者と女性と子どもの3つの視点を重要視している。山形市の場合、高齢者についてはSUKSK生活を推進することで目標が達成できると考えられるが、子どもと女性については、基本施策に位置付けて取り組んでいきたい。当計画に掲載している様々な取組を、担当部署と連携しながら進めていくとともに、当課においては特に健康面からサポートし、子どもたちが健全に育成されるような環境を整備していくことに重点的に取り組んでいきたいと考えている。

【委員】

- ・肥満傾向の市民や高齢者のフレイルが増えているようだが、最近の傾向として、高齢者のフィットネスクラブへの新規加入者が増えている状況である。そのため、フィットネスクラブと連携していくことも健康づくりには有効だと思うがいかがか。

【事務局】

- ・高齢者に対して自発的な健康づくりをどう促進していくかということも非常に大事だと感じている。これに関して様々な施策を考えているが、まずは自治推進委員の皆様などから協力いただき、各地区で健康づくりに関する活動を進めていただくことで、高齢者が健康づくりに積極的に取り組める環境ができると考えている。また、今お話しいただいたことに関していえば、フィットネスクラブを利用するとSUKSKポイントを付与するような取組を進めることなども重要だと考えている。

5 その他
なし

6 閉会